

先人達の言葉に耳を傾け、そして——その先へ……

# はばたけ 未来の イノベーター達よ

僕は絶望はしていません。長い闇のむこうに何か希望が見えます。  
そこには寛容の世界が広がっている。予言です。

**CIPT**  
CHIBA INNOVATION PROGRAM FOR THERAPEUTICS  
AT CHIBA UNIVERSITY

自分の力と可能性を信じて。



文部科学省選定 未来医療研究人材養成拠点形成事業  
「未来医療を担う治療学 CHIBA人材育成」

異なるバックグラウンドを有する博士課程、修士課程、  
医学部の学生が共に学び知的融合の素地をつくり、  
独自の能力を発展させるためのプログラムです。  
トランスレーショナル先端治療学やイノベーション医学、  
英語プレゼン・ディベート演習などの新しい科目を受講し、  
国内外の一流機関での実習に参加することができます。

問い合わせ先

URL <http://www.cipt-chiba-u.jp/>  
TEL 043-226-2825

文部科学省選定 未来医療研究人材養成拠点形成事業  
千葉大学 大学院医学研究院・医学部「未来医療を担う治療学 CHIBA人材育成」

イノベーターを育てるために——  
CIPT プログラム概略

本プログラムは全く新しい考え方を導入し、千葉大独自の  
基礎医学と臨床医学を統合した治療学研究推進体制の上で  
実施します。  
独創的な特徴を備え、将来の治療学を推進する人材を育成  
します。



## CIPTとは？

千葉大学医学部の100年以上にわたる臨床医学推進の歴史。その伝統をもとに「治療学イノベーション」の視点で医学部から大学院までの一貫的教育システムを導入し、将来の医療イノベーションを担う人材の輩出を目的とする人材養成プログラム。それが「CIPT」です。

医学部3年生全員がイノベーション医学教育を受け、希望者は4年生から5年生の間にイノベーション基礎力をつけるためのゼミや実習に参加できます。

医科学修士課程の学生は、医学部の講義を履修し、異なるバックグラウンドをもつ学生同士で切磋琢磨することでイノベーション的融合の素地の形成と、独自の能力発展の基盤づくりを目指します。

博士課程では実践力を養う特別ローテーション演習や国内外企業・研究機関での実習などを組織。医学部、薬学部、工学部の先進的教員をはじめ、製薬企業や政府機関、海外の開発研究機関の客員教授も参画するイノベーション医学の教育システムです。

## CIPTの特長

**1** 新しいタイプの  
「イノベーション医学」の  
教育システムによる講義と実習



**2** 学生が  
互いに切磋琢磨する  
教育システム



**3** 医学部生への  
早期の  
イノベーションマインド教育

## 講義と実習の一例

### トランスレーショナル先端治療学

先端医療開発のフロンティア教員と学生が小グループを作り、学生同士がプレゼンし合うゼミ形式の講義です。先進医療や臨床研究開発の魅力を学修します。

### イノベーション医学

千葉大学のメディカル工学関連の教員と、製薬企業などに所属する客員教員による講義です。医療イノベーションの実践現場の現状と展望を学びます。

### 英語プレゼン・ディベート演習

講師のネイティブの専門家が中心となり講義・実習を行い、英語でのプレゼンテーション力とディベート力を段階的にレベルに応じてスキルアップし、グローバルなイノベーション力を育みます。

### 創薬イノベーションインターンシップ

国内外の製薬企業や研究機関の研究所などの開発の実践現場で体験学習する実習です。夏休みなどを利用して実施します。企業に所属する客員教授 (CCPP) や海外の客員教授 (CVPP) が参画します。

博士課程の大学院生は、「イノベーション治療学演習」や「イノベーション治療学実習」で最先端の実験手技や臨床研究統計解析、生命倫理などを実践の現場で修得します。



## 往く道の周囲にも目を配り 自ら見出し、自ら実践する力を持て

医学研究院・免疫発生学  
教授 中山俊憲

これまでに確立された医療を、必要としている現実の患者さんに確実に提供し続ける…現場の臨床医として活動するということは、医学者として素晴らしいことですし、世の中にとって必要不可欠のものです。ですがそれだけでは、今以上の治療が現れることはありませんし、「治せなかった病気が治せるようになった」という変化も生まれません。その変化を起こすためには、どこかでイノベーションを起こす必要があります。それを実現できる人材を育てることが、このプログラムの目的です。

新しい治療法を生み出すためには、これまでの医学教育の道筋にはなかったもの…なかったけれども、実践上必要になるであろうことを、まず知ることが大切です。従来の医学教育のプロセスでは触れることのなかった部分…つまり決められたコースから少し外れたところに、自分にとって有益な情報や、自分の知識

を高める機会が転がっていたとしても、それが「そこにある」ことを知らなければ、わざわざ捜しに行こうとする者はいません。それを提供していきたい。見せていきたいのです。

そのうえで、本人がどう考え、何を選ぶか。どの方向へ向かうか。そうした検討と決断を行えるだけのものを、すべて見せていきたいと思っています。

このプログラムに参加する学生諸君に対しては、まず自分自身が得意な部分を知り、そこを伸ばしてほしいですね。特に気負ったりすることはない。興味があればまず手を挙げて、やってみてほしいと思います。そして私たち指導する側が何かを与えるというよりも、参加する学生諸君が、この場所で何かを見つけ、それを自分たちで実践していく、作り上げていくという、そうした自主性を存分に発揮してほしいと考えています。

問い合わせ先

千葉大学大学院医学研究院・医学部  
「未来医療を担う治療学CHIBA人材養成」

TEL 043-226-2825

URL <http://www.cipt-chiba-u.jp/>

